

100年前のサンフランシスコ万博出品

日光東照宮の境内模型

鳥取市移設へ動く

江戸幕府を開いた徳川家康を祭る日光東照宮（栃木県日光市）に所蔵されている20分の1スケールの「境内模型」を、鳥取東照宮のある鳥取市へ移設する計画が浮上している。既に日光東照宮側は了承しており、移設を働き掛けた鳥取県内の市民有志も「地方創生につながる」と受け皿となる推進団体を立ち上げた。移設を実現して東西の東照宮の絆を強めようと機運を盛り上げる。
(本社・中村宏)



日光東照宮を20分の1スケールで再現した境内模型。1915年のサンフランシスコ万博に出品するため内務省が制作した(日光東照宮提供)

鳥取東照宮、麒麟のゆかり

境内模型は1915(大正4)年に米国で開かれたサンフランシスコ万博に出品するため当時の内務省が制作。大きさは幅4・8㍎、奥行き9・6㍎、最も高い建造物の五重塔は高さ1・8㍎。日光東照宮の境内を再現した30畳ほどのスペースに、国宝の陽明門をはじめ、本殿や唐門など60点以上の建造物が本物さながらに配置されている。

東大や羽田候補

万博の後、東京大を経て日光東照宮の宝物館で展示していた。しかし、昨年行われた「400年式年大祭」の記念事業の

一環として同宮は新しい宝物館を建設。同模型に替わる新たな映像展示を導入したため、移設の検討を始めた。

東大や羽田空港などが候補として上がる中、鳥取県内の市民有志が昨年1月、日光東照宮の稲葉久雄宮司に面会。同宮の久雄宮司に面会。同宮の

上の聖獣「麒麟」が奥内では獅子舞として根付いていること、家康のひ孫で初代鳥取藩主の池田光仲が鳥取東照宮を造営し、麒麟獅子舞を広めたことなどを説明した。

鳥取と日光に深いゆかりがあることを知った稲葉宮司は「境内模型は鳥取の地方創生に活用したい」と力を込める。

同団体は、境内模型と共に所蔵されている洋画家、和田英作(1874

1959)の大作「千人武者行列絵図」(縦2

㍎、横22㍎)の貸与も働

き掛け。鳥取東照宮の参道沿いにある市歴史博物館(同市上町)への設置

を要望している。

を要望している。

市民有志が推進団体